

念願の細野一区自治公民館 住民交流の拠点として活用

2月19日、細野一区自治公民館の落成式が開催されました。この公民館はコミュニティ助成事業（宝くじ助成金）を一部活用し建設。倉田富夫区長は、「長年、区の公民館を新築したいと活動してきた。今日の落成式が開催できたのは、たくさんの人の協力のおかげ」とあいさつしました。



落成式には、地域住民や関係者らが出席。公民館は、今後、住民の交流・防災・伝統継承の拠点として活用されます

雇用対策協定締結



肥後市長（左）と元木局長（右）。今後、具体的な取り組みについては、今後、運営協議会の中で評価していきます

市と宮崎労働局が協力して 雇用の充実を目指す

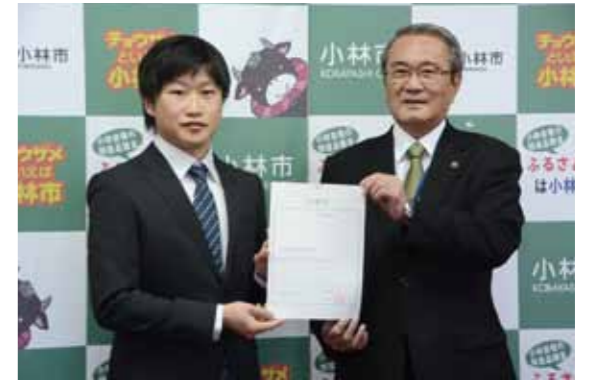
2月10日、市と宮崎労働局は「雇用対策協定」を締結しました。県内では4例目で、てななど総合戦略に定める「若者の雇用創出」などの施策を効果的に進めることが目的。同局の元木賀子局長は「それぞれの強みを生かし、地域に密着した雇用施策を推進していきます」とあいさつしました。

和牛生産者ら宮崎牛を寄贈 市内小・中学校の給食で提供

1月31日、市内の和牛生産者団体が宮崎牛220キログラムを寄贈しました。和牛部連絡協議会の東梅住男会長は「子どもたちに日本一の宮崎牛の美味しさを知ってほしい」とあいさつ。2月2日には、地域の和牛農家が小・中学校を訪れ、児童・生徒らと宮崎牛を使った「こすも〜丼」を交流を深めながら味わいました。



こすも〜丼は、宮崎牛やゴボウなどを使った牛丼で、味付けは焼肉のたれ風。児童は「おいしい」「また食べたい」と箸が進んでいました



落合さんは、「前職の物産館での経験を活かして、野尻の魅力発信に取り組みます」と意気込みを語りました

「野尻町の魅力を発信したい」 落合夏樹さんを協力隊に任命

地域活性化と定住・定着を目的とした総務省の「地域おこし協力隊」事業で、1月4日、落合夏樹さんを隊員として委嘱しました。宮崎市出身で、前職は都内の宮崎県のアンテナショップに勤務。野尻庁舎地域振興課に所属し、ハーブを中心とした特産品の紹介を通して、地域活性化を図ります。

取り組みを紹介します

きずな協働体 今月は、西小林地区

心新たにワークショップで新年度の計画づくり

にっこばまちづくり協議会は、設立してまもなく5年目を迎えます。平成29年度からは、永い歴史を持つ西小林振興会と組織を一体化し、新たなステージへと移行します。

この組織拡大とともに、市第2次総合計画に合わせた地域のまちづくり計画をたてるため、2月14日にまちづくりワークショップを開催しました。「まちづくりは楽しみなが

ら」の原点に戻り、ワクワク感を持って開催したところ、地域各種団体の老若男女35人が参加。物産販売所設置を見据えた朝市の実施、地域運営型バスの運行や買い物支援など、多種多様な提案がなされました。

3月に2回目を実施予定で、ワクワクする新たな計画づくり、進化した5年目にしたと考えています。



ワークショップの様子



若い力で盛り上げます！

青年部会
大牟田 渉太さん

にっこばまちづくり協議会
青年部会
瀬戸山 潤一さん

元気に長生きできるように こばやし健康フェスタを開催

2月4日、こばやし市民健康フェスタを中央公民館と市民体育館で開催しました。市民が主体となった健康づくりを推進することが目的で、市民ら500人が来場。来場者は、健康相談や食育、運動、検診などのコーナーで、健康に関する知識や健康づくりの実践方法などについて学びました。



会場には、宮崎犬も登場。来場者は、宮崎犬とのふれあいを楽しみながら検診や相談などで自分の健康状態を確認しました



金婚者を代表して、熊ノ迫文夫さん・信子さん夫妻が「これから夫と妻を取り合い、小林の発展に力を尽くします」と謝辞を述べました

地域福祉の充実を目指して こばやし福祉推進大会を開催

2月3日、こばやし福祉推進大会を開催し、福祉功労者の表彰と、金婚夫婦112組、米寿者97人を祝いました。受賞した団体・個人(敬称略)＝北西一区友愛会、夏木サロン、大沢津サロン、山田美代子、古賀信之、井手口宗正、岩元ヒサエ、大山利行、鹿嶋久美、境健一郎、猿渡之夫、庄田修、吉谷文雄

防疫体制やブランド化への理解深める

1月24日、小林市畜産振興大会が開催されました。市内の畜産農家や関係者など400人が参加。県畜産振興課ばうぞのまさつね 正恒課長の講演や宮崎大学の成果報告があり、参加者らは防疫体制の構築やブランド化の推進などについて理解を深めました。



JA こばやしカーブミラーを寄贈

1月31日、こばやし農業協同組合さかしたえいじ (坂下栄次組合長) が市にカーブミラー39基を寄贈しました。高齢者や子どもの交通事故防止に役立ててもらうことが目的。寄贈されたカーブミラーは、道路の安全確保のため市内各地に順次設置していきます。



新入学生にランドセルカバー贈呈

小林ライオンズクラブくらもとひでき (蔵元秀樹会長) から、市内小学校12校429人の新入学児童に、ランドセルカバーが贈呈されました。新しく小学生になる児童が安全に登下校できるようにと毎年実施。2月、同クラブの会員らが各小学校を訪れ、贈呈式を行いました。



定期市「こばやしまルシェ」初開催

2月12日、市文化会館駐車場で、こばやしまルシェが開催されました。新たな賑わいの場や体験の場を生み出すことが目的。市内外から約50店舗が出店し、農産物や加工品、飲食物が販売され、約800人の来場者で賑わいました。



社会教育に尽力。西誠さんを表彰

12月26日、西誠にしまことさんが県社会教育功労者賞を受賞しました。10年間、市の社会教育委員長を務めるなど社会教育の発展に尽力。「多くのひとに支えられ、光栄な賞を受賞できた。これからも市の社会教育委員11人で頑張りたい」と話しました。



人権意識の普及高揚に尽力

1月27日、市の人権擁護委員として3年間活動し、人権意識の普及と高揚に尽力したかりやひろふみ 仮屋博文さん、いのみのる 井野実さんに法務大臣感謝状を贈呈。二人は「人権について深く学ぶことができた。今後、新たな委員に頑張ってほしい」とあいさつしました。



地域住民ら須木地区の歴史を演じる

2月5日、須木地区の歴史をモチーフにした時代劇「塩の道」が文化会館で公演されました。約280人が来場し、地元住民らで構成された「すき歌劇団」による歌や踊り、方言などを織り交ぜた演劇に、会場は笑いと拍手で包まれました。



医療関係者ら高齢者救急の課題学ぶ

2月8日、西諸地域在宅医療推進研修会おちあいひでのぶ (西諸医師会主催) が開催されました。宮崎大学医学部の落合秀信教授が登壇し、高齢者救急の課題を説明。「ネットの活用など、マンパワー不足を他の方法で解決していかなければ」と訴えました。

